

インドの地誌学習

岐阜県立加納高等学校 木村 稔

はじめに

悠久の国インド。天竺、仏教発祥の地、釈迦…等日本にとってなじみの深い国である。欧米、アジア近隣諸国と違い日印関係でさしせまった問題もなく、終戦直後からインドとは穏やかな友好関係を築いているとみてよいと思う。本稿ではインドの地誌授業の一つの試みとして、地形図や各資料図を使用した白地図演習を取り上げてみた。

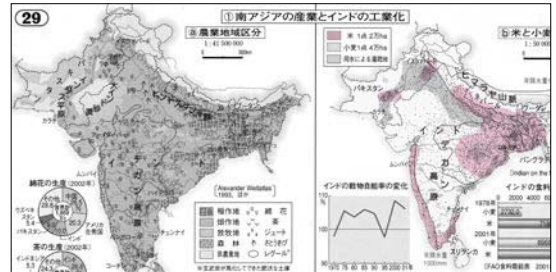
1. インドの自然環境と農業

地理A、地理Bの授業で南アジア、インドを取り扱う場合、導入として地形、気候等の自然環境から入ることにしている。どの地域であれまず自然環境を手堅くおさえたい。

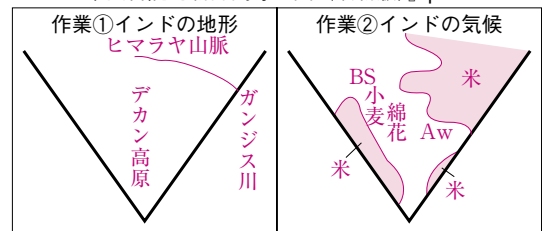
46億年前に誕生した地球の歴史を『新詳高等地図（最新版）』p.151の「地球の歴史」で概略を解説し、インドが先カンブリア時代に地殻変動をうけ、その後は造陸運動を受けただけの古大陸塊と新生代以降の激しい造山運動により大山脈となったヒマラヤ山脈等からなる地形であることをおまかに理解する。

【作業①】インドの概略図逆三角形(▽)を生徒各自のノートに大きく描かせヒマラヤ山脈、デカン高原、ガンジス川を確認する。インドの白地図を配布したりする必要はない。既成の白地図もよいが海岸線や国境を正しく認識しハンドライティングで国なり地域を描く。幸いインドの場合、印パ・中印の国境がしっかり定まっていない地域もあり大きくV字を描くだけですむ。

【作業②】p.29の㊸農業地域区分、㊹米と小麦の生産を参考にして、インドの気候と風向、年降水量1000mmの線を描き込み、降水量と米、小麦、綿花の相関性を理解する。



帝国書院『新詳高等地図（最新版）』p.29



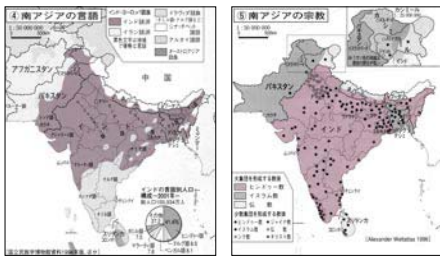
2. インドの歴史

インドの言語、民族にふれる前に簡単にインドの歴史を紹介しておきたい。中学校での世界史の知識は十分とはいえ、高校の授業でいきなりインダス文明、カースト制度、ヒンドゥー教等羅列しても覚えるための地理になりかねない。インドの地理に興味関心をもたせるために、導入として古代インド史を説明するとよい。

紀元前1500年ごろ、アーリア人がカイバー峠を経て西北インドに進入し、以後バラモン教を成立させ、のちにカースト制度と結びつく。しかしバラモンの権威を否定するかたちで、仏教、ジャイナ教がおこり、4～6世紀のグプタ朝の時代にバラモン教に仏教やジャイナ教等が吸収されてヒンドゥーが成立した。日本に仏教が伝来したころには、発祥の地インドでは仏教そのものがおとろえていった。

3. インドの言語、宗教

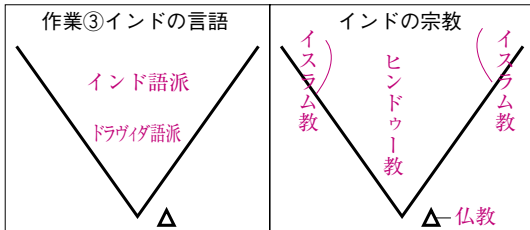
p.28④南アジアの言語をみて、インドのほとんどがインド・ヨーロッパ語族であることを理解す



帝国書院『新詳高等地図（最新版）』p.28

る。

【作業③】 p.28の④南アジアの言語、⑤南アジアの宗教の地図をみて言語、宗教の分布に相関性があることを理解する。しかしインドのすべてがヒンドゥー教、パキстанはイスラム教と短絡的に覚えるのは危険である。少数集団を形成する教徒が南アジアのどの国にも存在すること、さらにスリランカには複雑な民族、宗教対立があり事態を深刻化させていることにもふれておきたい。



	おもな民族	おもな宗教	おもな言語
インド	インド・アーリア系	ヒンドゥー教83%	ヒンディー語
パキスタン	パンジャブ系	イスラム教97%	ウルドゥ語
バングラデシュ	ベンガル系	イスラム教85%	ベンガル語
スリランカ	*	*	*

* 多数派：シンハラ系・仏教・シンハラ語 少数派：タミル系・ヒンドゥー教・タミル語

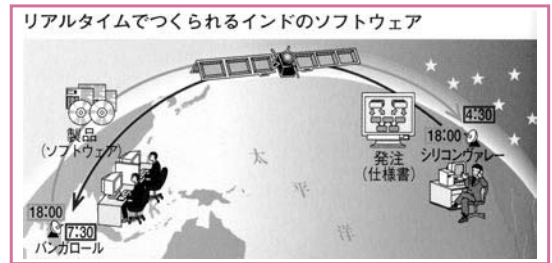
スリランカについては島の北東部と南西部で民族、宗教、言語が分かれ、双方の軍事衝突が激化していること、さらにネパールの国内情勢も目が離せない状況にあることを理解しておきたい。

4. インドの鋳工業

デカン高原、レグール土、綿花の栽培に適した自然環境をイギリスはみのがすわけがなくインドを植民地化。そしてイギリスは産業革命、「世界の工場」と繁栄を誇る。19世紀末にアサンソルにインド製鉄ができ、その後ジャムシェドプルに鉄鋼会社ができ本格的に鉄鋼の生産がはじまる。独立

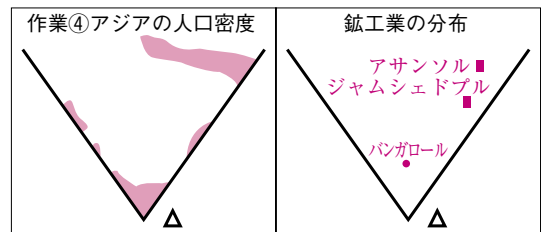
後はさらに基幹産業を公営化するにいたった。しかし社会主義国の多くがそうであったように、基幹部門の公営化は停滞をもたらした。80年代から90年代にかけて自由化政策がとられ海外からの投資の拡大に拍車がかかった。

しかし、今のインドはエレクトロニクスの生産が急増し (p.29◎鋳工業の分布)、特にソフトウェアの伸びは驚異で世界が注目するまでにいたった。バンガロールがインドのシリコンバレーとして成長した背景には何があるのか。「考察」に「時差や言語などの面から考えてみよう」とあるように、アメリカから夜に発注して翌朝にはインドから製品が届き、優秀なエンジニアは英語ができるということである。



帝国書院『新詳高等地図（最新版）』p.29

【作業④】 p.29の◎鋳工業の分布をみておもな鉄鉱石、炭田、主要な地名を白地図に描き込み、多くの工業都市が人口稠密地帯にあることをp.28の③南アジアの人口密度の分布図で確認する。



おわりに

インドを中心とする南アジアの地誌を自然地理、人文地理の観点で展開してみたが、歴史的背景を理解し白地図にさまざまな地理情報を描き込むことは地理学習には欠かせない。時間と空間領域を認識し、地理の面白さを再発見し、「地理好き」の生徒を増やしたいものである。